

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所ミルキーウェイ(児童発達支援)		
○保護者評価実施期間	令和7年11月20日		～ 令和8年1月18日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 2
○従業者評価実施期間	令和7年12月1日		～ 令和7年12月27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月10日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用児一人ひとりの発達段階やニーズに応じた、個別性の高い発達支援が提供できている。	利用児の発達状況や特性、保護者の意向を踏まえ、支援内容を柔軟に調整するとともに、職員間での情報共有を行いながら支援を実施している。	支援内容の記録および可視化をさらに進めるとともに、応用行動分析(ABA)の視点も取り入れながら、支援の質の向上および一貫性の強化を図っていく。
2	看護師を含む多職種の職員配置により、医療的ケアを含めた安心・安全な支援体制が整備されている。	個別のケア内容を整理したケア表の作成や、医療的ケアに必要な指示書を医師へ依頼し、保護者と連携を図りながら適切な支援体制の構築に努めている。	医療的ケアに関する情報や指示内容について、法人内の他事業所とも共有・連携を図りながら、より適切で質の高い支援体制の構築を進めていく。
3	保育園や医療機関、地域とのつながりを意識した支援に取り組んでいる。	保護者の同意のもと、保育園の見学や情報共有、医療機関への受診同行を行うとともに、事業所外での活動を通じて地域との関わりを持つ機会を設けている。	事業所外での活動や支援の様子について適切に発信し、保護者の安心感や理解の促進につなげるとともに、関係機関や地域との連携のさらなる強化を図っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	小集団での関わりや他事業所との交流の機会が十分とはいえない状況にある。	利用児数が限られていることに加え、個別対応が中心となる支援形態であることから、小集団での活動機会や外部との交流機会の設定が難しいことが要因と考えられる。	近隣事業所等への積極的な働きかけを行い、情報共有や合同活動の機会を検討するとともに、社会性や対人関係の発達を促す支援の充実を図っていく。
2	医療的ケアや個々の体調に配慮した支援が求められる中で、集団でのプログラム実施が難しく、個別対応が中心となっている。	利用児ごとに体調や医療的ケアの内容・実施タイミングが異なることにより、一斉活動の実施や統一的なプログラムの設定が難しいことが要因と考えられる。	保護者と事前に相談のうえ医療的ケアのスケジュール調整を行うとともに、職員配置の工夫や対応力の向上を図り、可能な範囲で集団活動の機会の確保に努めていく。
3	医療的ケアの必要性が高い利用児の受け入れ体制について、十分とはいえない面がある。	職員の経験や技術面における課題に加え、地域特性や受け入れ体制の整備状況により、対応可能な範囲に制約があることが要因と考えられる。	医療的ケアに関する研修の充実や、他事業所の見学・情報収集を通じて職員の知識・技術の向上を図り、受け入れ体制の段階的な強化を目指していく。